

ふくしま

(題字：福島小学校2年生 やすだ りり ちゃん)

第132号

令和3年12月1日発行

議会だより

発行：福島町議会
Tel 0139-47-2215

10/26 三岳2町内会館落成式での餅まき

写真提供：福島フォトサークル



P 2 町内会・団体の要望に応え改修費を補正 !!
… 定例会9月会議

P 4 一般会計ほか6会計の令和2年度決算を認定 !!
… 決算審査特別委員会

P22 議会がチェック、来年度予算に向けて !!
… 令和2年度行政評価（事務事業評価）

ふくしま ふくしま ふくしま

福島小学校2年生 ながい まひろちゃん

福島小学校2年生 まるい ともやくん

福島小学校2年生 よしざわ あすみちゃん

に応え改修費を補正!!

グラウンドと広場を改修～

定例会9月会議は、9月13日に開会し15日閉会しました。
会議では、条例の制定・一部改正、計画の策定・変更、各会計の決算認定など町長提出の議案21件と議会提出議案3件の合計24件を審議し、原案のとおり可決されました。また、2件の報告を受けました。
各会計の決算は、決算審査特別委員会に付託、審議され、すべて認定すべきものと決定しております。
会期中の参画者は2名でした。

条例の制定・一部改正

○過疎地域の持続的発展の支援に関する特別措置法の適用に伴う固定資産税の特例に関する条例の制定
新たな過疎法等の公布により、産業振興を効果的に促進、地域企業の持続性を高めるため固定資産税の課税を免除する条例を制定。

○地元企業雇用等促進条例の一部改正
外国人技能実習生の助成期間を3年から最大5年とする改正。

○過疎地域の持続的発展の支援に関する特別措置法の施行に伴う過疎地域自立促進特別事業基金条例・企業誘致条例の一部改正
新たな過疎法施行に伴う文言改正。

計画の策定・変更

○第5次総合計画の変更
令和3年度のローリングによる事業の見直しや変更。
変更後の総事業費は62億360万円。

○過疎地域持続的発展市町村計画の策定
支援措置を活用する計画の策定。

・デジタル庁設置法・デジタル社会の形成を図るための関係法律の整備に関する法律の施行に伴う関係条例の整理
デジタル庁設置法等の施行により、次の3条例を改正。
・行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律に基づく個人番号の利用・特定個人情報提供に関する条例
・個人情報保護条例
・手数料徴収条例

新しく追加となった事業



町内会要望があった吉岡地区
流雪溝蓋の取替 1,700万円



館崎地区児童公園の遊具更新
460万円 ほか4事業を追加

定例会 9月会議

町内会・団体の要望 ～吉岡地区流雪溝の蓋、新緑公園～

単位：千円

会 計 名	補正額	補正後の 予算総額
一般会計（第5号）	155,717	4,348,362
国民健康保険特別会計（第2号）	31,435	792,702
介護保険特別会計（第1号）	14,108	554,281
後期高齢者医療特別会計（第1号）	122	72,019
浄化槽整備特別会計（第1号）	1,828	65,928
国民健康保険診療所特別会計（第2号）	△ 2,609	91,137
水道事業会計（第2号）	165	242,638

補正予算の内容

令和2年度決算に係る繰越金などで補正した各会計の予算については、左記の表のとおりです。

報 告

○令和2年度財政健全化判断比率の報告

令和2年度決算による財政健全化判断比率の報告。

○令和2年度教育に関する事務の管理・執行状況の点検・評価に関する報告

令和2年度教育委員会部局の事務事業評価について報告。

同 意

○教育委員会委員の任命

金谷由美子氏（新）の選任に同意。

議会提出の意見書

○松前半島道路の整備促進を求める意見書の提出

松前半島道路の早期整備を求める意見書。

○国土強靱化に資する道路の整備等に関する意見書の提出

道路整備の推進や管理の充実・強化を求める意見書。

○コロナ禍による厳しい財政状況に対処し地方税財源の充実を求める意見書の提出

令和4年度の地方税財源の充実等を求める意見書。

※意見書本文は、議会ホームページに「議会提出議案」として掲載しております。

※令和2年度の決算について審議した「決算審査特別委員会」の内容については、次ページから掲載しております。

総額61億5,127万3千円

決算審査 特別委員会

(単位：千円)

令和2年度各会計決算額	会計名	歳入	歳出	差引
	一般会計	4,568,170	4,461,223	106,947
	特別会計			
	国民健康保険特別会計	696,211	664,774	31,437
	介護保険特別会計 (保険事業勘定)	534,556	525,281	9,275
	介護保険特別会計 (サービス事業勘定)	1,100	1,100	0
	後期高齢者医療特別会計	70,701	70,578	123
	浄化槽整備特別会計	47,509	47,509	0
	国民健康保険診療所特別会計	97,740	88,685	9,055
	水道事業会計	318,066	292,123	25,943
	計	6,334,053	6,151,273	182,780

令和2年度決算審査は、定例会9月会議で平野隆雄委員長ほか8名(議長を除く)の議員により構成する「決算審査特別委員会」を設置し、9月14・15日の2日間、一般会計を含む7会計について審査、各事務事業に対して質疑・意見交換が行われました。



平野隆雄 決算審査特別委員長

総務費

問 デマンドバスの運行範囲に千軒地区を入れることは出来ないのか？

(佐藤孝男議員)

答 運行範囲は民間事業者も入る協議会の中で決められているが、町として協議会に地域の実情をしつかり説明し運行できないか検討していきたい。

問 少子化対策として出産祝金の金額、第一子五万円を十万円に引き上げることを検討してはどうか。

(杉村志朗議員)

答 出産祝金の制度は第一子五万円、第二子二十万円、第三子以上百万

円とかなりインパクトのある政策と考えており、政策に取組んで以降、合計特殊出生率も上昇に転じていることから、当面は現状の形で進めていく。

問 ふるさと応援基金の課題として、ふるさと納税の募集に係る経費割合を上げていくが、どの程度の割合を見込んでいるのか？

(平沼昌平議員)

答 ふるさと納税については全体に占める経費の割合が50%以内となっているが、令和2年度については55%と5%経費がオーバーしている状況。令和3年度は寄付額を上げ返礼品の割合を下げる見直しを行い8月から運用している。

民生費

問 保育所にコロナ対策としてA-Iロボットとサーモグラフィを購入しているが、利用状況は？

(木村隆議員)



5月に行われた不法投棄撤去作業

答 購入後、ソフトウェア等のトラブルから使用できなくなる不具合もあったが、現在は教室内に設置し毎日の検温等に活用している。

衛生費

問 ごみが不法投棄されている場所はどの地区が多いのか、その対策は？

(佐藤孝男議員)

答 不法投棄は町内一円で発生しており、どの地区が多いということはない。これからも町内パトロールや監視カメラの設置、開発局への協力依頼等、監視体制を強化していく。



千軒の登山小屋

■商工費

問

千軒登山をする人が増えていて、山で遭難する人も居る。入山する際の確認と緊急時の連絡方法等はどうなっているのか？

(佐藤孝男議員)

答

入山する際の確認は町の管轄ではないが、登山小屋を利用する際には連絡先等を確認しており、緊急時の連絡先も周知されている。

■教育費

問

今回、タブレットを使用して遠隔授業を行っているが、全家庭にインターネット環境が整っているのか？

(藤山大議員)

答

昨年の緊急事態宣言で北海道全体が臨時休校になった際、当町も同様の措置を取らせていただいた。福島町の場合は平成30年度までにタブレットを一人一台持たせており、今現在はほぼすべての家庭でインターネットの環境が整っている。

■財産

問

近年、山林を寄付する所有者が増える傾向にある。今後も寄付者は増えていくものと考えられるが、山林寄付の手続きや、相続の支援体制を検討するなど、受入れを拡大していく考えは？

(川村明雄議員)

答

昨年度は3名の方から4筆の森林の寄付があった。これまで行政では町の将来的負担が掛かるものについては寄付を受けない姿勢でしたが、管理されず荒廃したままにするよりは町でしっかり管理したほうが町全体の土地の利活用には良いと考え、なるべく相談を受けるスタンスに変えている。

■診療所会計

問

診療所の患者も増えてきているが、経営状況等の現状はどうなのか？

(溝部幸基議長)

答

収支黒字化を目指しているが、まだ数年は掛かると考えている。ただ今回のワクチン接種で診療所そのものが町民に認知されてきており、これから健診等を通じながら診療所を町民にしっかりPRしながら収益に繋がるようやっていきたい。

問

町の診療所として薬品の取り扱い、管理の透明性が求められると考えるが、現状はどうなっているのか？

(平沼昌平議員)

答

薬品の管理の件については従来から意見を頂いており、管理については医師にしっかりとお願いしている。今後、何らかの機会を通じて明確に管理の透明性を保てるような資料を提出していきたいと考えている。



やまゆりクリニック受付窓口の職員

町の有害鳥獣駆除への対策は

効率的な体制作りに努めている

【小鹿昭義議員】

町内において熊の目撃情報
が相次いでいる。町でもハン
ターや職員によるパトロール
や罠設置など警戒を強めてい
たが、7月に大変痛ましい事
故が発生してしまった。

この度の事故を受けて、町
として有害鳥獣駆除に携わる
人材確保等への対策について
伺う。

駆除する方の作業軽減等を
考えると、処理施設の整備は
必要不可欠だ。以前4町での
対応を検討していると述べて
いたが、現在の他3町との協
議状況について伺う。



小鹿 昭義 議員

【鳴海清春町長】

町ではこの度の事故を受け
出沒地域への対応の強化に努
めているが、改めて亡くなら
れた方に対しご冥福をお祈り
します。

1点目の有害鳥獣駆除に携
わる人材確保等への対策につ
いては、現在行っている狩猟
免許取得等助成金等制度の充
実、捕獲個体の搬出や解体作
業等の補助など、効率的な有
害鳥獣駆除ができる体制づく
りに努めている。

2点目の駆除後の処理施設
整備に向けた協議状況は、広
域事務組合の参与幹事会にお
いて、衛生センター敷地内の
土地使用の可否を構成町に提
案したところ各町も参画した
い旨の意見があり、現在、当
町が幹事町となり協議を進め
ている。今後のスケジュール
は、令和4年度に各町との調
整を行い、令和5年度の施設
建設を予定している。

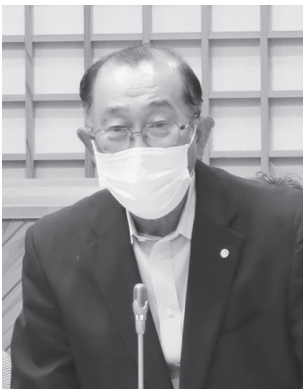
防災マップの見直しを

令和4年度に改訂を予定

【佐藤孝男議員】

最近の新聞報道による津波
想定情報では、当町の津波到
達が道南で1番早く、海岸線
の民家はほぼすべてが浸水範
囲に含まれている。町が発行
した防災マップを改めて注視
し、町長に次の点について伺う。

- ①避難施設について、ほとん
ど津波の高さに対応してい
ないが、対策は。
- ②到達時間が早い、どのよ
うな対策を取るのか。
- ③冬季の避難路と避難場所の
確保はどうするのか。
- ④千軒地区の防災無線には雑
音が入り、内容を聞き取れ
ないことが頻繁にあるが改
善に向けての対応は。
- ⑤日頃の河川の点検や危険個
所などの把握はどのよう
なっているのか。



佐藤 孝男 議員

【鳴海清春町長】

津波発生時の住民対応は、
まず、自分の命を守る行動を
第一優先に、高台等に避難す
ることが大事になる。

①津波発生の際は各地域の高
台に一時避難していただ
き、その他の災害に際して
は町内会館を活用する。

②避難する習慣づけのため避
難訓練の充実に努める。

③前段の回答と同様になる
が、積雪で使用出来ない場
合も想定される。

④保守業者と協議中であり、
根本的な解決策を検討する。

⑤関係機関と協力しながら河
口付近を中心に定期点検や
土砂の浚渫を計画的に実施
している。

防災マップは、今回の想定
内容に基づき令和4年度に改
訂する予定となっている。

一般質問

詳しい質問内容については、議会ホームページをご覧ください。



木村 隆 議員

マイナンバーによる証明書等のコンビニ交付は 費用対効果の面から現時点では難しい

【木村 隆議員】

当町では昨年11月からマイナンバーカードの普及促進を行っている。マイナンバーカードを所有するメリットとして、身分証明書や保険証としての利用やコンビニで公的証明書の取得ができる等が上げられるが、次の点について伺う。

- ① 町におけるマイナンバーカードの普及状況
- ② マイナンバーカードの利用方法等の周知
- ③ 証明書のコンビニ交付の可能性は

【鳴海清春町長】

町では国が進める行政のオンライン化とデジタル改革の推進を図るため、昨年11月から休日にマイナンバーカード臨時窓口を開設、高齢者の方でも取得できるようサポートしながら普及促進に努めてきた。

- ① 8月29日現在、1,700人が取得、交付率は道内で5番目に多い44・05%。
- ② 町広報・各戸配布による周知を行うが、マイナポータルの操作方法に関する支援等、高齢者に寄り添った対応に努めていく。
- ③ 行政のオンライン化、町民の利便性向上等の観点からコンビニ交付は必要なものと認識しているが、導入に要する費用を考えた場合、現時点では難しい。



平沼 昌平 議員

SDGsに特化した取組を 学習機会の創出に努めます

【平沼昌平議員】

国連が提唱するSDGsが策定されて5年余りたつ。2020年からは「行動の10年」がスタートし、子供たちに学びの場を提供するなど動きが広がっている。

日本では新しい学習指導要領がスタートし、「持続可能な社会の創り手の育成」が求められている。育成すべき資質・能力の3本柱として知識や思考力などと合わせ人間性があり、象徴となるのがSDGs学習だと言われており、当町のSDGs教育環境の現状と今後の方向性について伺う。

【小野寺則之教育長】

当町においては、小学校6年生の社会科で国連の学習の際に持続可能な開発目標SDGsの意義や目標の内容について学習している。また、小学校、中学校において社会科・道徳・総合的な学習などの科目で、環境問題・人権問題・住み続けられるまちづくり等について持続可能な開発目標を意識した学習を行っている。

将来を担う子供たちに持続可能な地域や産業の担い手となるために、必要な資質・能力が育成されるよう、SDGsの考え方について、学習機会の創出に努めていく。

「これってどういう意味？」
「SDGs」

持続可能な開発目標のこと。世界中にある環境問題等の課題を2030年までに解決していくこととする取り組み。17の目標を169項目に分けて構成されている。

一般質問

町内外へ縄文土器の積極的なPRを

PR・展示の方法について工夫していく

【平沼昌平議員】

北海道・北東北の縄文遺跡群が世界遺産に登録されることとが決定した。当町にも乏しいものの遺物である土器などをチロップ館等で展示している。また、7月から実施されている縄文展示施設を巡るスタンプラリーはチロップ館も対象となっている。他町では工夫を凝らして保管体制を整えて対応しているが、当町としては、土器の取り扱いや保管体制、他市町との連携をどのようにされるのか伺う。



平沼 昌平 議員

【小野寺則之教育長】

当町の縄文遺跡は目に見える集落跡として復元・保存されていないため登録対象となっていないが、北海道主催の「北の縄文スタンプラリー」にチロップ館が参加し、連携を図っている。今後の展開として当面はチロップ館を中心とした展示を継続していくが、将来的には他の施設での活用に向けて検討を進めていく。

【鳴海清春町長】

館崎遺跡等出土品については、チロップ館の展示に加え、既存施設での展示にも活用しているが、現時点では教育目的に主眼を置き、観光面での活用は難しいと考えている。

令和2年度 議会費の使われ方

コロナ禍で研修等の中止が大きく影響!!

(単位：千円)

区 分	R元	R 2	令和2年度の支出概要
報酬	23,581	24,496	・歳費24,456 ・諮問会議委員報酬40
給料	10,582	10,755	・事務局職員3名、会計年度任用職員1名
手当等	15,726	14,663	・議員期末手当10,430 ・職員期末手当等4,233
共済費	13,370	12,162	・議員共済等負担金8,221、職員共済費3,941
賃金	2,079	0	・R 2より会計年度任用職員となったため「給料」で計上
報償費	0	0	・専門的審査、調査謝金
旅費	1,207	117	・普通旅費91 ・職員旅費18 ・委員費用弁償8
交際費	108	62	・祝儀10、接待5、土産5、香典10、供花11、後援15、協賛金3、会費3
需用費	1,005	793	・消耗品費171 ・追録代9 ・購読料29 ・議会だより印刷製本費584
使用料・賃借料	163	165	・インターネットサーバスペース使用料41 ・議会インターネット中継回線利用料124
備品購入費	265	14	・会議録作成ソフト ほか
負担金・交付金	1,006	968	・管内議長会等360 ・四町議員協議会85 ・議員公務災害補償組合負担金等69 ・政務活動費454
償還金・利子	4,324	4,298	・議会中継システム譲受代金年賦金1,084 ・議場等音響設備譲受代金年賦金3,214
合 計	73,416	68,493	※事務局職員3名、会計年度任用職員1名分の給料等は「職員給与費」に計上されているため、議会費の決算額とは一致しません。

各議案の審議結果



定例会 9月会議採決の様子

- ・賛成○、反対×、病欠△と表示しています。
- ・溝部幸基議長は採決には加わりません。

会議名	議案番号	議 案	議員名	花田 勇	佐藤孝男	平沼昌平	木村 隆	川村明雄	杉村志朗	藤山 大	小鹿昭義	平野隆雄	審査結果
9月会議 (9/13～15)	15	過疎地域の持続的発展の支援に関する特別措置法の適用に伴う固定資産税の特例に関する条例の制定		○	○	○	○	○	○	○	○	○	原案 可決
	16	デジタル庁設置法・デジタル社会の形成を図るための関係法律の整備に関する法律の施行に伴う関係条例の整理		○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	17	地元企業雇用等促進条例の一部改正		○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	18	過疎地域の持続的発展の支援に関する特別措置法の施行に伴う過疎地域自立促進特別事業基金条例・企業誘致条例の一部改正		○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	19	第5次総合計画の変更		○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	20	過疎地域持続的発展市町村計画の策定		○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	21	令和3年度一般会計補正予算（第5号）		○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	22	令和3年度国民健康保険特別会計補正予算（第2号）		○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	23	令和3年度介護保険特別会計補正予算（第1号）		○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	24	令和3年度後期高齢者医療特別会計補正予算（第1号）		○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	25	令和3年度浄化槽整備特別会計補正予算（第1号）		○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	26	令和3年度国民健康保険診療所特別会計補正予算（第2号）		○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	27	令和3年度水道事業会計補正予算（第2号）		○	○	○	○	○	○	○	○	○	

会 議 名	議 案 番 号	議 案	議 員 名								審 査 結 果
			花 田 勇	佐 藤 孝 男	平 沼 昌 平	木 村 隆	川 村 明 雄	杉 村 志 朗	藤 山 大	小 鹿 昭 義	
9月 会 議 (9/13 ～15)	認定 1	令和 2 年度一般会計歳入歳出決算認定	○	○	○	○	○	○	○	○	原 案 認 定
	認定 2	令和 2 年度国民健康保険特別会計歳入歳出決算認定	○	○	○	○	○	○	○	○	
	認定 3	令和 2 年度介護保険特別会計歳入歳出決算認定	○	○	○	○	○	○	○	○	
	認定 4	令和 2 年度後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定	○	○	○	○	○	○	○	○	
	認定 5	令和 2 年度浄化槽整備特別会計歳入歳出決算認定	○	○	○	○	○	○	○	○	
	認定 6	令和 2 年度国民健康保険診療所特別会計歳入歳出決算認定	○	○	○	○	○	○	○	○	
	認定 7	令和 2 年度水道事業会計利益の処分・決算の認定	○	○	○	○	○	○	○	○	
	同意 1	教育委員会委員の任命	○	○	○	○	○	○	○	○	原 案 同 意
	報告 4	令和 2 年度財政健全化判断比率の報告	○	○	○	○	○	○	○	○	報 告 済 み
	報告 5	令和 2 年度教育に関する事務の管理・執行状況の点検・評価に関する報告	○	○	○	○	○	○	○	○	
	発委 3	松前半島道路の整備促進を求める意見書の提出	○	○	○	○	○	○	○	○	原 案 可 決
	発委 4	国土強靱化に資する道路の整備等に関する意見書の提出	○	○	○	○	○	○	○	○	
	発委 5	コロナ禍による厳しい財政状況に対処し地方税財源の充実を求める意見書の提出	○	○	○	○	○	○	○	○	



決算審査特別委員会の様子

◇ 会議等出席状況 ◇

会議や議会へ通知があった行事等の8月から11月までの出席状況をお知らせします。

「○」は出席、「×」は欠席、「－」は出席不要・任意、「◎」は委員外議員として出席、「△」は別公務・病欠、「職」は正副議長の職務出席を表しています。

年 月 日	会 議 ・ 行 事 名	花田	佐藤	平沼	木村	川村	杉村	藤山	小鹿	平野	溝部
8月2日	議会基本条例諮問会議	－	－	○	－	－	－	－	－	○	○
13	令和3年度福島町成人式	－	○	○	－	○	○	○	○	○	○
25	経済福祉常任委員会（社協の財政健全化、定例会9月会議後の所管事務調査）	－	○	×	－	－	－	○	○	×	○
26	渡島西部広域事務組合議案説明	－	－	－	－	－	－	－	－	－	○
31	経済福祉常任委員会意見書手交	－	○	－	－	－	－	－	－	○	○
9月3日	正副議長会議（定例会9月会議議案説明）	－	－	－	－	－	－	－	－	○	○
	渡島西部広域事務組合第2回定例会	－	○	－	－	－	○	－	－	－	○
6	一般質問通告	－	○	○	○	－	－	－	○	－	職
	議会運営委員会（定例会9月会議の運営）	○	○	○	－	○	－	－	○	職	職
9	議員勉強会（9月会議）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
13	定例会9月会議	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
14	決算審査特別委員会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
15	決算審査特別委員会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	定例会9月会議	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	議員会総会	○	○	○	－	○	－	○	○	○	○
	林業活性化議員連盟総会	○	○	○	○	○	－	○	○	○	○
	議会運営委員会（定例会9月会議の反省）	○	○	○	－	○	－	－	○	職	職
18	敬老会	－	○	○	－	○	－	－	○	○	○
23	福島幼稚園運動会	－	－	－	－	－	－	○	－	－	○
24	議会運営委員会報告書手交（定例会9月会議の反省）	－	－	×	－	－	－	－	－	○	○
25	健康フェスティバル	－	－	－	－	○	－	－	－	－	○
10月6日	総務教育常任委員会（事務事業評価、吉岡小学校）	○	－	－	○	○	○	◎	－	○	○
11	渡島西部広域事務組合第2回臨時会	－	○	－	－	－	○	－	－	－	○
	第3回諮問会議	－	－	○	－	－	－	－	－	○	○
13	経済福祉常任委員会（事務事業評価、吉岡温泉、国民健康保険）	－	○	○	－	－	－	○	○	○	○
16	前田一男政経セミナー	－	－	－	－	－	－	－	○	－	○
19	渡島廃棄物処理広域連合議会運営委員会	－	－	－	－	－	－	－	－	○	－
	令和4年度全国中学校体育大会・第52回全国中学校相撲選手権大会実行委員会第2回総会	－	－	－	－	－	－	－	－	○	○
22	総務教育・経済福祉常任委員会意見書手交	－	○	－	－	○	－	－	－	○	○

年 月 日	会 議 ・ 行 事 名	花田	佐藤	平沼	木村	川村	杉村	藤山	小鹿	平野	溝部
10月26日	三岳2町内会館落成式	—	○	○	—	○	○	—	○	○	○
27	渡島廃棄物処理広域連合議会第2回定例会	—	—	○	—	—	—	—	—	○	—
29	経済福祉常任委員会（町内視察、執行方針）	—	○	○	—	—	—	○	○	○	○
11月1日	議会基本条例諮問会議答申	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○
	総務教育常任委員会（町内視察、執行方針）	△	—	—	○	○	○	—	—	○	○
5	経済福祉常任委員会 （水道料金の見直し、指定管理者の導入）	—	○	○	—	—	—	○	○	○	○
8～10	渡島西部四町議会議員連絡協議会研修視察 （福島県伊達市）	—	—	—	—	—	○	○	—	○	—
11	広報・広聴常任委員会（商工会青年部との懇談会）	—	○	○	—	—	—	○	○	○	○
12	広報・広聴常任委員会（商工会女性部との懇談会）	—	○	○	—	—	—	○	○	○	○
14～15	全国過疎連盟定期総会（東京都）	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○
17	経済福祉常任委員会行政視察 （木質バイオマスボイラー：厚沢部町・知内町）	—	○	○	—	—	◎	○	○	○	○
19	商工会令和4年度要望	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○
	議会運営委員会（議会だより編集ほか）	○	○	○	—	○	—	—	○	職	職
20	町民芸術鑑賞会	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
20～21	鈴木直道政経セミナー（札幌市）	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○
22	経済福祉常任委員会（ごみ減量化対策・社協）	—	○	○	—	—	—	○	○	○	○
25	総務教育常任委員会（福島商業高校）	○	◎	—	○	○	○	—	—	○	○
	総務教育・経済福祉常任委員会意見書手交	—	○	—	—	○	—	—	—	○	○
28	認定こども園福島保育所お遊戯会	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○



11/8～10 渡島西部四町議会議員連絡協議会研修視察（福島県伊達市）

学校給食の地元食材活用について

【論点と意見】

白米の目標アップと農産物の安定供給を！

1 農産物の使用拡大

白米は、米保冷库整備等による使用拡大が大幅に図られることから、目標値をさらに高く設定することを望む。

他の農産物については、必要使用量確保等の課題に対し、関係団体による常設協議会を設置し、地場産物の現況や情報共有、生産者の理解と安定供給の体制づくり、行政支援等について協議・検討すべきと思慮する。

【調査概要】 令和3年7月12日開催

昨年度に引き続き地元食材の活用状況等について調査しました。



7/16福島産「黒米ご飯、ウニ汁、昆布と椎茸の煮物」

地元魚介類の一次処理や冷凍食品づくりの委託検討を！

2 水産物の使用拡大

地元水産物の使用はイカやタコ等に限られており、他の魚は冷凍食品を購入している現状で、給食センターでの処理が出来ないなどの理由から、積極的に活用がされていないが、近年資源量が回復し低価格での仕入れが可能な地元魚種もあることから、町内商店・水産加工業者に対する地元鮮魚加工の可能性調査や、魚介類の一次処理・冷凍食品づくりの委託などを検討すべきと思慮する。

吉岡小学校の今後の在り方について

【論点と意見】

地域の強い思いを尊重し、柔軟な対応を！

1 今後の対応

町が示した方向性は、「吉岡小学校は当面の間存続させるとし、5年経過後、児童数が10人を切った際は改めて保護者・地域等と検討する。」とのことだが、その際には、はじめに統合ありきではなく、同地区住民の吉岡小学校への強い思いを尊重し、地域の意見をくみ上げながら保護者・地域等と吉岡小学校の在り方について、十分検討し、柔軟な対応をすべきと思慮する。

【調査概要】 令和3年10月6日開催

児童数が10名未満となったことから、今後の在り方を調査しました。

2 学校選択制

令和4年度以降は学校選択制を廃止し、町立小・中学校通学区域の取扱要項を改正し対応するとのことだが、申請手続きの負担軽減と内容周知を徹底されたい。

3 定住対策の推進

吉岡地域における出生数の増加は、若年世代の養殖こんぶ業着業が大きな要因・成果となっていることから、水産業における新たな養殖業や、定住対策につながる産業等、町内全域に展開する政策の推進に期待する。



10/19よしおかファンタスティックステージ発表会

社会福祉協議会の財政健全化計画について

【調査概要】 令和3年8月25日開催

昨年2月の調査に引き続き、財政健全化の内容を調査しました。

【論点と意見】

財政健全化の取り組みが不十分、改善の余地・可能性がある！

協議会の決算状況等は一定の理解をしたが、資料からは経営健全化に向けた検証・取り組みが不十分で、改善の余地・可能性があると思察される。

資料では、協議会の安定的な運営を確保するため、当初予算に計上している支援補助金800万円に加え200万円を追加補正するとしているが、社会福祉法人としての自主性・自立性を充分確保する事が必要不可欠であり、平成12年の介護保険事業導入後は、従来の自主財源と合わせ「介護保険事業の収益」を組み込むことで、持続可能な法人運営に努めることが、協議会の基本原則とされており、町支援補助金・委託事業等についても、協議会の経営健全化の視点に沿って詳細に検討し、要綱等に規定すべきと思慮する。

現状では、追加支援することで健全化に向けた主体的意欲を削ぐ結果にもなりかねず、まずは協議会において、経営健全化計画の見直しと、自主財源の確保に向けた取り組みを再検討・強化し、町において内容の検証を行う必要があると思慮することから、町、協議会において以下の点を踏まえて充分協議・検討し、今回の補正計上については、再考されることを強く望む。

1 自主財源確保に向けた対策

- ① 賛助会員の積極的募集を再検討願いたい。
- ② 各種団体・事業等への助成金・負担金について、町とともに再検討願いたい。
- ③ 介護保険事業の収益確保の為、事業内容の検証をしなければならないと思慮する。
 - ・各事業の現況分析と今後の推察
 - ・居宅介護支援事業の検証（収益確保）
 - ・介護サービス利用者の積極的な確保
 - ・人的体制整備（専門的人材の育成）
- ④ 事務局人件費を、法人運営・町受託事業・介護保険事業の業務割合に応じて振り分けし、適切な現況分析が可能となるよう検討されたい。



社会福祉協議会のヘルパー活動車

2 活動の周知

協議会の目的・役割・活動内容等が、町民から充分理解されていない。会費は町内会から納入されているが、町民の会員意識は希薄であり、HPの有効活用など、改めて周知活動を徹底すべきと思慮する。

3 町支援補助金・委託事業等の在り方

協議会は、社会福祉法人として、自主財源を確保し、持続可能な事業を継続・運営することが原則であり、町は、協議会の自主性・主体性に配慮しつつ、連携を強化し、指導・助言する立場にある。

町支援補助金・委託事業等については、協議会の経営健全化の視点に沿って詳細に検討し、交付の根拠となる要綱等を早急に整備されたい。

吉岡温泉整備事業について

【調査概要】 令和3年10月13日開催

町では、新たな吉岡温泉の基本設計策定業務委託に係るプロポーザルを実施したので、調査しました。

【論点と意見】

地域材活用と現施設の課題解消を優先した施設づくりを！

1 地域材活用と新たな熱源方式

採択された企画（案）では、施設の構造は地元材を活用した木造在来工法を基本とし、加温方式は木質チップを主な熱源とするとしている。

使用する建築材として、伐期を迎えた町有林（杉等）の活用を検討されたい。地元材の有効活用には、材の選定、伐採・乾燥・製材等に長い期間を要することから早急に検討されたい。



10/13温泉の屋上を調査する委員

2 現施設の課題解消等を最優先した施設づくりと今後のスケジュール

現施設の重点課題は、雨漏り対策と温泉の湯量確保の2点であり、新たな施設の建設に当たっては、課題解消を最優先すべきと考える。

雨漏りについては、地形由来の風水特性を把握し屋根の形状を検討、また、不足する湯量確保については、浴槽の形状・面積のほか、近隣施設より深い浴槽（60cm）についても検討が必要と考える。

なお、着工から完成までの約2年間の雨漏りによる町民の利用制限、施設本体への悪影響、維持補修経費の累積等を考えると、施設整備の日程を前倒しすべきであると思慮するので、再度検討されたい。

国民健康保険税率の見直しについて

【調査概要】 令和3年10月13日開催

国保連合会より新たな保険料率のシミュレーションが、8月31日に示されましたので、調査しました。

【論点と意見】

国保税率改正は理解するが、町民への丁寧な説明・周知を望む！

1 保険料水準統一後の努力義務

保険料水準の統一化においては、広域化の恩恵を受ける自治体と、受けることが出来ない自治体で不公平感が生ずることが考えられる。

当町は、広域化の恩恵を受ける町とのことだが、保険税の徴収強化、医療費の抑制をさらに進め、保険料水準の統一化後に求められる努力義務に対応できるよう、現段階から取り組まれない。

2 基金の取り扱い

資料では、令和4年度の税率改正により不足する財源として基金580万円ほどを取り崩すとしている。前回示したシミュレーションとの差異も大きく、今後、特に令和6年以降は毎年税率を見直すことになるため、変動の推計が難しくなり、保険税の負担が大きくなることも想定されるので、基金の活用については、現在の基金積立に至る経緯を考慮し、低所得者への激変緩和等住民負担の軽減を重視し、基金の取り扱いについては慎重な対処を望む。

の変更と、新過疎計画の内容を調査しました。

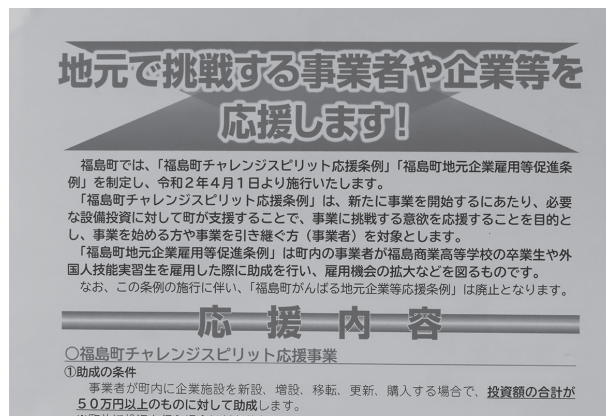
【調査概要】 令和3年7月29日開催

【論点と意見】

1 第5次総合計画の変更について

(1) チャレンジスピリット応援事業

当事業の見直しは、昨年度からの支援状況を踏まえ、令和5年度までの各年支援件数を6件から3件に変更するとの内容だが、制度の内容を点検し、より活用しやすくなるよう実情に合った見直し作業を進められたい。



事業内容を紹介しているパンフレット

(2) 町勢要覧作成事業の掲載記事

2年間に及ぶ新型コロナウイルス感染症は、未だかつて経験したことがないある種の大惨事であり、町民が一丸となって取り組んだ予防対策・各種事業が功を奏し、結果的に感染者ゼロの状況を維持している。長期間に渡る町民の挑戦をしっかりと記録に留めるべきであり、町勢要覧への掲載を検討願いたい。

(3) 福島小学校南側校舎改築事業

当事業は、令和5年度基本設計、令和6年度以降実施設計・新校舎建設・旧校舎解体との計画だが、現校舎の建設時（昭和53年）の児童数は664名、今年の児童数は81名と大幅に減少しているので、基本設計にあたっては、将来的な児童数の推移・吉岡小学校との統合等を視野に入れ、総体的な校舎づくりを慎重に検討すべきと思慮する。



外壁補修工事が終わった南側校舎

2 過疎地域持続的発展市町村計画について

(1) 今後の組織・団体の在り方

新過疎計画における令和8年3月末の人口目標は、3,100人台となっている。

今年6月末の人口は3,767人で、65歳以上の高齢者数は1,887人（高齢化率50.09%）と、限界集落の範疇に入った状況であり、今後さらに高齢化率が上昇し、実数の減少が推測されることから、町内会組織や各分野の町関連組織・団体が、10年先・20年先はどう在るべきか等、時間をかけた広範な検討が必要と思慮する。

(2) 人材育成のさらなる必要性

新過疎法では、「人材の確保・育成」を重点事項としている。人材育成は、身に着けた技術や資格を町内で高めるばかりでなく、技術をさらに磨き高めるため、「町外に出て、見て、経験する」ことが大事であり、当町では、農林水産業の担い手育成事業や、資格取得費助成等を実施しているが、ソフト事業はまだ不十分であり、さらに充実させるとともに、経験値を高める新たな事業メニューの取り込み等を積極的に調査・研究されたい。

【調査概要】 令和3年7月30日開催

今年度のローリング作業に伴う後期実施計画

【論点と意見】

1 第5次総合計画の変更について

(1) キタムラサキウニの深浅移植事業

若い人が地元に戻り、新規着業者として漁業に従事しているが、キタムラサキウニについては、新規着業者等の水揚げ量の確保、生計維持につながる主要魚種となっている。

キタムラサキウニの深浅移植の数量、場所については、漁業権管理委員会で決定しているとのことだが、深浅移植継続による漁獲量確保と資源管理、キタムラサキウニの水揚げ量全体に占める移植水揚げ割合等の分析を、鋭意進められたい。



吉岡漁港でのキタムラサキウニ水揚げ

2 過疎地域持続的発展市町村計画について

(1) 地域の持続的発展のための基本目標

新過疎計画の基本目標は、3,100人台の人口維持と、社会増減数300人減（年平均60人減）と設定している。

福島町の人口減少は、自然増減が社会増減と同じかそれ以上に重要な要因になっているのが実態であり、町も、その方向で少子高齢化に対応する事業を実施していることから、基本目標の設定にあっては、社会増減と合わせ自然増減も重点項目に位置付けるべきと考える。

(2) 関係人口の創出

計画では、関係人口創出の柱として、東京・札幌の「ふるさと会」を位置付けているが、会員も高齢化し、2世・3世等新規会員の取り込みが課題であり、町として、「ふるさと会」存続のため設立メンバーの2世・3世の取り込みに関与していくべきであり、ふるさと会の運営サポートなど、町内出身者の拠り所として、人のつながりを改めて強化する手段を講じ、関係人口の創出拡大に資するための積極的な検討を進められたい。



令和元年6月15日(土)札幌福島会の様子

(3) 地域間交流の促進と人材育成

現在の大学との連携協定は、主に水産分野の応援とのことであるが、地域間交流の促進のためにも、当町に滞在して研究してもらえるような、宿泊施設の整備や交通費への補助等をするなど、大学との連携の新たな在り方として、当町を大学生の研究・活動の場と位置付けてもらい、定期的に学生を受け入れることで地域間交流を促進する手法等を検討されたい。

(4) 農林業の振興における有害鳥獣対策

以前から提起されているが、有害鳥獣駆除に従事するハンター数が絶対的に不足しており、単町でのハンター育成が困難な状況になってきていることから、行政主導による広域対応を検討する必要があると思慮する。

所管する関係施設・事業等の課題や問題点を把握するため、町内視察と令和3年度の町執行方針について、それぞれの委員会が施策・取り組み状況を確認しました。

【調査概要】

R 3.11.1 町内視察・執行方針確認

【所管関係施設・事業等の視察】

建築費は、従来から北海道単価で積算しているが、町独自の建設単価の設定を検討すべき。

1 三岳1町内会館新築事業

使い勝手の良い会館となっているが、国道入り口付近へ看板等の設置を願いたい。

2 三岳地区車庫整備事業

建設工事の進捗状況は、順調である。
周辺施設整備は、計画的に進められたい。

〈視察施設等〉

- ・三岳2町内会館新築事業
- ・町有建物集約整備事業
(三岳地区車庫整備事業)
- ・福島小学校南側校舎外壁補修工事
- ・月崎1町内会館改修事業



月崎1町内会館 窓の雪囲い

【執行方針の取り組み状況の確認】

1 各大学との包括連携の状況

東京農業大学との連携事業については、協定時の事業展開と異なった状態になっており、次の段階に向けて再考察が必要と思慮する。

福島商業高校が新たに実施した函館大学での模擬講座受講・学食体験は、高校生の新たな進学先としての間口が広がることから、来年度以降も継続できるよう町の支援に期待する。

高校の魅力化として取り組む「ITスキルを持った生徒の育成」については、小・中学生に対してもIT教育の推進施策導入の検討・実施を望む。



函館大学の模擬講座を受講する
福島商業高校生徒

2 ふるさと納税制度を活用した主な地場産品のPR、消費拡大の取り組み状況

令和2年度のふるさと納税（寄付額）は、前年度の約5倍、今年度上半期の受入額は、昨年同期の約1.6倍となっており、目標達成額5,000万円に達する見込みとのことである。

返礼品提供事業者にとっては、返礼品を含む自社商品のPR・新たな顧客開拓の場として有効な手段となっており、今後とも町・納税返礼品提供事業者等との連携による積極的なPR活動の展開を強く望む。

3 第2青函トンネル構想実現へ！ 道内経済界等との連携状況

道内経済界との連携については、コロナ禍により約1年半の活動が停止されたが、今年10月末の緊急事態制限・蔓延防止等重点措置の解除により、再始動できる状況となった。

今後、第2青函トンネルを実現する会による町単独活動と、国に対する渡島総合開発期成会の要望事項位置付けを明確にする2本立ての活動を強力に展開すべきであり、議会としても、町と共に地元の総意として活動を強力に推進すべきと思慮する。

【調査概要】

R 3. 10. 29 町内視察・執行方針確認

【所管関係施設・事業等の視察】

1 普通河川館の沢川河道整備事業

近年、集中豪雨が多発しているので、早期に河道内の浚渫を完了されたい。町内各河川についても、過去の災害発生場所等を確認し、計画的に河道整備を進められたい。

2 空家等対策支援事業（特定空家行政代執行）

行政代執行により地域住民の不安が解消されたが、付近に危険な空家があることから、定期的なパトロールと解体に向けた事務を進められたい。

〈視察施設等〉

- ・普通河川館の沢川河道整備事業
- ・町道整備事業（神明町1号線
豊浜1号線）
- ・空家等対策支援事業
（特定空家行政代執行）



工事中の町道豊浜1号線

【執行方針の取り組み状況の確認】

1 森林組合に対する町の支援状況

森林組合の要望に基づき、令和4年度から地域おこし協力隊を採用することであるが、任用期間3年後のフォローアップを考えておくべきである。

また、町内の伐期が来た杉等については、私有林・町有林に関わらず森林組合と連携を図り、積極的な森林資源の活用を検討願いたい。

2 森林環境譲与税基金を活用した事業の実施状況

森林環境譲与税は、令和6年度から個人住民税の枠組みの中から徴収されることになるので、税の使用目的も含め理解を得られるよう町民へ周知されたい。

3 広域基幹林道島前線改良事業

改良工事は、令和6年度完成予定であるが、災害発生時における代替路線の使用方法等について、松前町と工事の竣工を待つことなく早急に協議を進めるべきと思慮する。

4 保育士の確保対策

現在の保育士募集は、専門学校や短期大学等への訪問が主であるが、新卒者の採用は長期間なく、育児等で一時保育士業務から遠ざかった有資格者の掘り起こしなど、新たな募集方法を検討し、適切な職員体制の構築を進められたい。



福島保育所のホールで遊ぶ園児たち

5 各種がん予防対策

各種がん検診の受診者数は毎年ほぼ変わらないことから、ほぼ同じ人が受診していると推察されることから、未受診者の掘り起こしと受診勧奨を促進されたい。かかりつけ医による個別検診等、受診しやすい環境づくりをさらに進め、「がん」が発見された人へのフォローアップ体制等も検討すべきと思慮する。

町内介護事業者との懇談会について

【現状と課題】

【調査概要】 令和3年7月21日開催

コロナ禍のなか大変ご苦労している介護事業者と、介護現場の現況や今後の介護事業について懇談しました。

今後の施設介護、居宅介護の在り方を、早急に検討すべき！

1 スマイルとの懇談

(1) 新型コロナウイルス感染症の流行前と現在の状況変化

コロナ前と現在の介護利用者の状況については、特に変化はありません。ワクチン接種に安心せず、現在も「手洗い・マスク着用」を励行しています。



(2) 介護事業所としての会社経営

介護保険制度に基づきサービスを提供していますが、制度以外のサービス希望(墓地清掃等)があった場合、会社としてできるかぎり有料で応えるようにしています。働く人も少なく、応えられないこともあります。状況を見ながら対応しています。

2 福島幸愛会との懇談

(1) 陽光園・介護の現状

介護職員は常時3～4人程度不足しており、職員60名の高齢化も進み、将来的には外国人介護職員雇用も視野に検討を進めなければなりません。



(2) 疾病による長期入院時の空きベッド確保とグループホームの食事代

特養入所者が長期入院した場合、その間の施設利用料収入はなく、施設内ベッドを確保しておかなければならず、経営的にかなり苦しい状態になってしまいます。

グループホームの食事代は、1日3食1,050円で、ほとんどが原材料代で人件費・光熱水費等はありません。食事代値上げは、入所者や家族のことを考えれば難しいですが、法人経営を考えれば、早期に検討し、値上げしていかなければなりません。

3 福島町社会福祉協議会との懇談

(1) 介護事業の現状

現在の課題は、介護サービスの利用者減とこれに伴う介護利用料の減収、ヘルパー不足、ヘルパーの処遇改善(職員給与の財源確保)等です。



(2) 介護事業所と法人運営

介護事業は、民間事業者として自助努力をしていかなければなりません。法人運営にあっては、過去に介護収入をもって補填してきた経緯があり、運営方法が悪かった点は、多いに反省しなければなりません。今年度も助成していただいておりますが、町との関わり部分の支援を継続してお願いします。

議会諮問会議から答申



村山会長から溝部議長へ答申書手交（R 3.11. 1）

令和3年度の議会基本条例諮問会議は、調査審議を求める3項目の諮問を受け、3回（5月10日、8月2日、10月11日）の会議を経て、11月1日に答申書が村山会長より溝部議長に手交されました。

今年度の答申内容と、来年度の諮問事項は次のとおりです。

1. 今年度の答申内容

(1) 議会評価（令和2年度分）の検討について

- ① これまでの諮問会議からの答申を反映した評価内容等になっており、概ね適正に行われていると考える。
- ② 町民の声を町政に届ける手段、また、町政の方向性を確認する手段として、一般質問と文書質問を積極的に活用する議員活動を望む。

(2) 議会基本条例の見直し検討による行動計画の確認について

- ① 適正に行われていると認める。
- ② 整理No.14「議会だよりの充実・改善」について、自分の周りでも「議会だよりが見やすくなった。」との話を聞く。引き続き紙面の構成・内容の充実に取り組まれることを期待する。

(3) 常任委員会所管事務調査の内容確認について

調査事件：学校給食における地元食材活用状況

学校給食への地元食材の活用が進まないのは、生産者や栄養士等、関係者間で問題が共有されていないことが原因ではないか。

常任委員会などで問題点を指摘するだけでは問題の解決にはならない。現実をきちんと捉えて、問題点を挙げ、解決策を関係者で協議しなければ建設的な意見は出てこないし、いつまでも前に進まないと考える。

調査事件：福島町議会議員及び福島町長の選挙における選挙運動の公営に関する条例の制定

町議会議員・町長の選挙運動に係る経費を公費負担とした経緯については理解したが、問題は選挙に興味のない人へのアプローチではないかと考える。事情があって投票に行かない人もいるとは思いますが、町民の中には議員の顔も分からない人も居ることから選挙に関心をもってもらうためにも、積極的に活動（顔見せ等）を行う必要がある。

2. 来年度（令和4年度）の諮問事項について

(1) 調査審議を求める事項	(2) 確認を求める事項
- 適正な議員定数（現行10人）の検討 - 適正な議員歳費月額額の検討 - 議会評価（令和3年度分）の検討	- 議会基本条例見直し検討による行動計画の確認（令和3年度取組状況） - 常任委員会所管事務調査内容の確認

議会による行政評価

来年度予算に向けて
議会がチェック!!

町では、まちづくり基本条例に基づき行政活動を点検し、改善を図るため、令和2年度一般会計決算による行政評価（事務事業評価）を実施し、議会基本条例に基づく決算説明資料として議会に提出しています。

議会では、「議会行政事務事業評価要綱」を定め、それぞれの事務事業について議会側の評価を示し、議会としてのチェック機能を強化するとともに、併せて翌年度の予算へ反映させることとしています。

全議員が1事業ずつ評価し、常任委員会ごとに調整した結果・評価方法は次のとおりです。

◎議会の行政評価結果概要

1. 総務教育常任委員会の内容（R 3. 10. 6 開催）

評価は39件の事務事業で、町の最終評価は、すべて「現状にて事業を継続又は拡充」とする「A」となっています。

議会の評価結果は、

「十分評価できる」とした「◎」が1件

「概ね評価できる」とした「○」が38件となりました。

2. 経済福祉常任委員会の内容（R 3. 10. 13開催）

評価は29件の事務事業で、町の最終評価は、

「現状にて事業を継続又は拡充」とする「A」が25件

「事業の進め方の改善により継続」とする「B」が1件

「事業の規模・内容等の見直し検討」とする「C」が2件

「事業の抜本的見直しを検討」とする「D」が1件となっています。

議会の評価結果は、

「十分評価できる」とした「◎」が1件

「概ね評価できる」とした「○」が25件

「やや不足している」とした「△」が3件となりました。

【町の評価表】

○評価の分類

A = 「現状にて事業を継続または拡充」

B = 「事業の進め方の改善により継続」

C = 「事業規模・内容等の見直しの検討」

D = 「事業の抜本的見直しを検討」

【議会の評価方法】

議会行政事務事業評価要綱に基づき、全議員が各事務事業の内容を総合的に判断した4段階評価を行い、「議会の最終評価」と総合的な説明を加えて「議会評価」としています。

「◎」 十分評価できる

「○」 概ね評価できる

「△」 やや不足している

「▲」 不足している

来年度の評価に向けて【両委員会共通意見】

現在の予算重視の評価方法では、適切な評価とならない項目も見受けられるため、評価シートの見直しを始めとした評価方法全般の改善と、目標設定のハードルを上げるなどの検討を更に進められたい。

施設関連事業については、利用者数が減少した評価要因となっているが、事業効果減少の判断は、コロナ禍によるものが大きな要因となっていると推察されるので、統一的な評価対応をすべきであったと思慮する。

※次のページからは、各事務事業別の評価を常任委員会ごとに掲載しています。

総務教育常任委員会 所管事務事業

＊議会の評価 ◎：十分評価 ○：概ね評価 △：やや不足 ▲：不足

事務事業名	事業内容	町の評価	議会の評価	
		最終評価	評価	説明
No.1 情報公開	議会だより発行、議会ホームページ運用経費ほか	A	◎	引き続き住民に興味を持って見てもらえるよう、更なる工夫を期待する。
No.2 職員研修	職員の研修計画に基づいた研修の実施	A	○	知識・接遇・専門的研修等、研修の質的向上を図り、職員の視野を広げるため全国市町村国際文化研修所等への研修参加も検討願いたい。
No.3 車両管理	公用車両の適正な管理	A	○	引き続き各車両の整備点検を進め、今後とも適切な管理を進められたい。
No.4 交通安全対策	町民に対しての交通安全啓発活動	A	○	指導員の高齢化に対処する体制づくりと、効果的な啓発の更なる工夫を図られたい。
No.5 町民運動対策 (青少年ほか)	青少年問題協議会の開催、松前地区防犯協会への助成金の交付	A	○	全町的な運動展開になっていない。犯罪・非行の防止のための情報発信に努められたい。
No.6 インターネット事業	役場庁舎、外部公共施設のインターネット環境の維持保全	A	○	引き続きセキュリティ対策に努め、インターネット利用拡大の取り組みを期待する。
No.7 ホームページ管理	ホームページを運用し町民等へ行政情報を発信する	A	○	統計資料等の基本的事項や事務事業評価の発信、行事予定等の日々の更新を図るようにされたい。
No.8 生活館等管理	町内14町内会館を適正に維持管理する	A	○	公共施設維持保全計画の基本方針に基づき、町内会館の適切な管理運営を期待する。
No.9 災害対策	防災機器の整備、防災資材確保、防災訓練等、住民の安全な生活環境を守る	A	○	個別受信機の良い利用のため継続的なメンテナンスが必要。特に、千軒地区の抜本的な雑音対策を更に検討されたい。
No.10 町内会連合会助成	福島町町内会連合会の活動を支援するため助成金を交付	A	○	少子高齢化が進行する中、住民参加を目指した住民活動の統一的な組織展開を検討されたい。
No.11 文書広報	町広報誌の発行	A	○	今後とも町民に分かりやすい広報誌の発行に努め、ちらしの集約化等を検討されたい。
No.12 ふるさと応援基金運営	ふるさと納税を募集し、寄付に対する返礼品を贈呈する	A	○	ふるさと納税の新規会員の取り込みを更に進められたい。
No.13 産業活性化サポート事業	技術取得研修や地場産品を活用した新商品の開発などに対し助成	A	○	新商品開発のため、専門の指導者や大学・関係機関等の活用についても支援されたい。
No.14 町民運動対策 (コミュニティ)	町内会連合会（コミュニティ運動事業）への助成	A	○	全町的な運動展開はさらに厳しさが増すと思慮するが、しっかりした活動を期待する。
No.15 バス待合所管理	バス待合所（5カ所）の維持管理	A	○	今後も利用者にとって快適な施設の維持管理を期待する。

23 福島町議会だより

－ 第132号 令和3年12月1日発行 －

総務教育常任委員会 所管事務事業

＊議会の評価 ◎：十分評価 ○：概ね評価 △：やや不足 ▲：不足

事務事業名	事業内容	町の評価	議会の評価	
		最終評価	評価	説明
No.45 教育関係団体・大会参加助成	教職員団体への助成、児童生徒の全道・全国大会参加費用の助成	A	○	各種団体等の状況等を十分把握し、助成事務を執行されたい。
No.46 福島商業高等学校存続対策	入学時の奨励金、検定受験等の助成ほか	A	○	高校と連携の上、魅力ある学校づくりに邁進されたい。
No.47 友好町交流事業	長野県木曽町、長崎県松浦市、東京都墨田区との学生交流	A	○	三市町交流事業を推進するとともに、新たな地域との交流の展開を期待する。
No.48 A L T 招致	英語指導助手 2 名招致	A	○	引き続き英語教育の充実に努力されたい。
No.49 児童生徒輸送	児童生徒の通学、学校行事、各種大会参加等への輸送	A	○	現状の児童生徒送迎等を維持されたい。
No.50 奨学金貸付	経済的理由により高校、大学等に就学が困難な学生への奨学資金貸付	A	○	国の動向を見ながら、給付型奨学金の検討を進められたい。
No.51 基礎学力向上支援事業	基礎学力の向上が必要な科目に臨時教員を採用し、チームティーチングを実施、小中教諭の先進地視察研修	A	○	時代の流れに応じた独自の支援策を展開、強化発展されたい。
No.52 教員住宅管理	教員の生活拠点となる住環境の整備・管理	A	○	引き続き計画的な整備を進められたい。
No.53 小学校管理	・小学校の適正な管理運営 ・学校施設等の維持整備 ・I C T 教育に必要な環境の整備、関係機器の保守管理 ・学校再開に伴う新型コロナウイルス感染症対策	A	○	児童が快適な環境で学習できるよう施設の長寿命化対応等に努められたい。
No.54 中学校管理	・中学校の適正な管理運営 ・学校施設等の維持整備 ・I C T 教育に必要な環境の整備、関係機器の保守管理 ・学校再開に伴う新型コロナウイルス感染症対策	A	○	生徒が快適な環境で学習できるよう施設の長寿命化対応等に努められたい。
No.55 学校給食センター	児童・生徒への学校給食の充実	A	○	米等の地域食材の利用割合を上げ、メニューに工夫を加え、残さず食べられるおいしい給食の提供に努められたい。
No.56 学校給食センター施設維持管理	学校給食センターの施設・設備等の維持管理	A	○	給食の提供に支障のないよう、安心安全な維持管理に努められたい。

総務教育常任委員会 所管事務事業

＊議会の評価 ◎：十分評価 ○：概ね評価 △：やや不足 ▲：不足

事務事業名	事業内容	町の評価	議会の評価	
		最終評価	評価	説明
No.57 社会教育総務	社会教育委員会議等活動運営、スポーツ・文化活動功績者の表彰、各種学級、講座等	A	○	町社会教育の状況を的確に把握し、指導体制の確立と活発な事業展開を期待する。
No.58 読書活動	図書室（福祉センター内）の運営	A	○	これからも、より町民に親しまれるよう図書管理システムの有効活用と図書司書の配置を期待する。
No.59 成人教育	各種講座開催、ブックスタート事業・高齢者学級の運営、ふくしま女性の会・PTA連合会の運営費助成	A	○	異世代間の交流が図られているが、引き続き住民ニーズを把握し、リーダー養成に努められたい。
No.60 青年教育	教育委員会主催の成人式、実行委員会（新成人）主催の成人祭の開催運営助成	A	○	成人式の在り方の検討を進めるとともに、青年教育の新たな展開を検討されたい。
No.61 少年教育	小中高生を対象とした青少年主張大会、吉岡小学校学校開放事業、少年対象講座の開催	A	○	通学合宿や福島学ジュニアなど、新しい事業も取り入れているが、さらに積極的な展開を期待する。
No.62 芸術・文化	芸術鑑賞事業、町民文化祭を主催する文化団体協議会への助成	A	○	新たな展開を期待する。
No.63 文化財保護	歴史講座の開催、埋蔵文化財等の保存・啓蒙・公開展示、文化財保存団体への助成	A	○	チロップ館を活用した専門的な文化財保護活動を期待する。
No.64 保健体育総務	スポーツ推進会議の開催、各種社会体育事業、各団体への運営費助成	A	○	町の保健体育の状況を的確に把握し、指導体制の確立と活発な事業展開を期待する。
No.65 総合体育館運営	総合体育館施設の維持管理	A	○	利用者の視点に立った維持管理に努められたい。
No.66 町民プール運営	町民プール施設の維持管理	A	○	町民プールの有効活用を進められたい。
No.67 ファミリースポーツ公園管理	ファミリースポーツ公園（パークゴルフ場）施設の維持管理	A	○	利用者が高齢化等で減少する中で、児童生徒等の利用を促進する事業、利用拡大の検討をされたい。
No.68 福祉センター運営	福祉センター施設の維持管理運営	A	○	音響設備の点検・整備等、施設の適切な維持管理に努められたい。

経済福祉常任委員会 所管事務事業

＊議会の評価 ◎：十分評価 ○：概ね評価 △：やや不足 ▲：不足

事務事業名	事業内容	町の評価	議会の評価	
		最終評価	評価	説明
No.16 戦没者追悼式事業	戦没者を追悼する式典を実施	A	○	遺族会とも協議のうえ、戦争の無い平和の誓いを行う行事として、防災無線を活用した全町的な黙とうをするなど、引き続き新たな展開を期待する。
No.17 社会福祉	社会福祉団体への補助金交付(社会福祉協議会外)	A	○	社会福祉協議会の財政健全化については、介護事業を含めた自助努力を積極的に進められたい。引き続き高齢者や低所得者の生活安定のため、行政と密接に連携し社会福祉業務全般について適切に執行願いたい。
No.18 高齢者行事	敬老会の開催	A	○	全町的な行事の継続については評価する。今後とも趣向を凝らし参加者に楽しんでいただけるよう期待する。
No.19 在宅福祉事業	老人クラブ連合会への補助	A	○	老人クラブの活発な活動に期待する。
No.20 吉岡総合センター管理運営	吉岡総合センターの維持管理	A	○	利用者のニーズに合った適切な管理運営に努められたい。
No.21 学童保育	授業終了後の保育に欠ける学童の保育	A	○	保育体制を確保の上、教育委員会と連携し、特色を持った運営を期待する。
No.22 ごみ減量化対策	家庭から排出される生ごみの自家処理機購入に対する助成	C	△	可燃ごみ排出量は減少しておらず、現場の声を聞き、町民に対する生ごみの水切り徹底、無駄なごみを出さない生活様式の改善を徹底指導するよう検討されたい。 (3R：リデュース、リユース、リサイクルの周知徹底)
No.23 保育所	福島保育所(定員60名)の運営	A	○	教育委員会と連携し特色のある認定こども園の運営を期待する。年齢バランスを考えた正職員の採用を検討願いたい。
No.24 社会福祉総務	社会福祉団体活動支援、温泉優待券配布、寝たきり老人介護者手当支給	A	○	寝たきり老人等在宅介護手当の増額を検討願いたい。
No.25 重度心身障がい者等タクシー料金助成事業	病院等へ通院するためのタクシー料金の一部を助成	A	○	利用率低迷の要因をしっかりと分析し、適切に執行すること。
No.26 老人福祉	希望者に対し、緊急通報システム機器を設置する	A	○	検証を行い、高齢者に対する利便性のある事業として一本化することも必要ではないか。
No.27 健康づくり推進	健康づくり推進員の配置、健康フェスティバルの開催等による町民の健康増進	A	○	健康づくり推進員と保健師が連携しながら、日常生活の中で健康に対する意識の醸成を促す活動に力点を置かれたい。
No.28 医療対策(保健衛生総務)	在宅当番医制運営事業への負担金、保健師等に対する修学資金貸付	A	○	毎年度貸付実績がない状況であることから、その要因を分析し、今後の対応を検討すべきである。
No.29 医療対策(医療対策)	子ども医療等に係る福祉医療システムの管理、日曜当番医制による町民健康保持	A	○	広域的な取り組みを進められたい。
No.30 老人保健	健康教育、リハビリ教室等を実施	A	○	町立診療所と連携した在宅リハビリ(作業療法士等の配置)を充実させるための検討をされたい。

経済福祉常任委員会 所管事務事業

＊議会の評価 ◎：十分評価 ○：概ね評価 △：やや不足 ▲：不足

事務事業名	事業内容	町の評価	議会の評価	
		最終評価	評価	説明
No.31 多面的機能支払交付金事業	地域活動組織（農業者による任意団体）への活動経費の交付	A	○	地域活動組織と連携し、円滑な事業展開を期待する。
No.32 活性化センター管理運営	「あづま〜る」施設の維持管理	A	○	地域生活文化の活動拠点としての利用と、食や歴史等の町内外への情報発信を期待する。
No.33 熊等による被害対策	熊等の有害鳥獣の被害防止と危険個所の巡回	A	○	ハンター後継者の確保に努力し、捕獲後の処理負担を軽減するための協力体制の構築と助成金の増額を検討すべき。
No.34 利子補給事業	漁業者への貸付に対する融資機関への利子補給	A	○	関係機関と連携し、円滑に事務を進められたい。
No.35 水産加工振興協議会補助	協議会の運営補助	A	○	原料不足と価格高騰のため、当該補助の検証をしながら、基幹産業に対する強力な振興策を検討願いたい。
No.36 水産多面的機能発揮対策事業	水産業の多面的機能を発揮させるために活動している組織への支援（吉岡藻場保全会・豊かな海づくりの会）	A	○	活動組織と連携し、円滑な事業展開を期待する。
No.37 漁村環境改善総合センター運営	福島・吉岡漁村環境改善総合センターの管理運営	C	△	福島については、改修し現状維持に努められたい。吉岡については、老朽化により使用休止していることから評価対象から除外すべきである。
No.38 労働者支援	雇用保険の手続き、職業紹介等の労働支援	A	○	職業紹介等の効果的な事業の改善、新規事業の工夫を期待する。
No.39 地場産業開発研究事業	地場産業開発研究会への補助金の交付	D	△	商品開発等に対する新たな体制整備を急ぐべき。（地場産業開発研究会は、令和3年度で解散予定）
No.40 観光振興	観光協会への補助、広域的観光協議会との連携事業、プロモーション・物販イベント等でのPR事業	A	○	当町の観光事業の実態として、観光協会やまちづくり工房の単独での体制確保は困難であり、早期に町の方針を示し、体制充実を図るよう指導・助言されたい。
No.41 横綱記念館管理運営	千代の山・千代の富士記念館の管理運営	A	○	貴重な資料を無駄にすることなく両横綱の偉業を顕彰し、大切に引き継いでいくことを期待する。購買グッズの充実についても検討されたい。
No.42 特産品センター管理	道の駅内にある特産品センターの管理運営	B	○	道の駅としての評価が低い現状を踏まえ、内容充実を図るための再検討が必要である。
No.43 青函トンネル記念館管理運営	青函トンネル記念館の管理運営	A	○	情報発信が不足している。イベントも含めて積極的な施設の利活用を考え、第2青函トンネル構想などの企画展示に積極的に取り組まれたい。
No.44 街灯料助成事業	街路灯設置・街灯料の助成	A	◎	他の公共施設等のLED化も期待する。

町民の声

地場産物を使った学校給食



給食センター
栄養教諭
西川 泰弘 さん

学校給食では、福島町産の食材を積極的に使用しています。黒米、千切り昆布、椎茸などを中心に使用しています。町内の農家さんが作る野菜類や、漁業協同組合や町から、ウニやあわびなどを提供していただいています。

他町の学校給食では、とても提供されないであろう高級食材も提供することができています。また、黒米はこれまでカレーの日に提供していましたが、福島町の子どもたちにとって、より馴染みのあるもので身近に食べてもらいたいとの思いから、様々な献立と組み合わせで提供することにしました。

今後の課題として、町内産の食材の使用率を向上させることが必要です。町内の生産者や加工業者に一層の協力を頂きながら、福島町の特色を活かした安心安全な給食の提供をすることで、たくましい子ども達の成長に貢献していきたいと思っています。

議員の雑感

第二青函トンネル構想の実現へ



副議長
平野 隆雄

日本列島を海でざっくり分けると、北海道、本州、四国、九州となる。

本州は四国と3本の橋で道路と在来線が、九州とは橋とトンネルで道路と在来線、新幹線が繋がっており、どちらも本州と陸続きといっても差し支えない程、インフラ整備が整っている。

第二青函トンネル構想では、トンネル下部を貨物列車、上部をトラックや家用車での走行を可能にする事で、より円滑で大量の物資を本州以南へ運ぶ大動脈のような役目となり、北海道の豊富な農水産物を、より輸送コストを削減且つ新鮮なうちに全国に届ける事ができる。個人移動も然り、本州各地への所要時間も大幅短縮となり、人の往来が容易になるため、観光や仕事の経済的メリットは勿論、様々な効果を生み出す事ができるだろう。

これまで沖縄と北海道は道路交通では離島と位置付けられる地域だったが、初めてその位置付けから脱却出来ると期待される第二青函トンネル構想は、北海道経済の未来を大きく変える可能性を持った事業だ。北海道が「道」で繋がっていない事を格差と捉え、今こそ「第二青函トンネル」着工を願う。

議会の主な会議・行事予定

※変更・追加となる場合もあります。

12月1日(水)	一般質問通告 議会運営委員会 ・定例会12月会議の運営ほか	午前10時～午後2時 午後3時～	委員会室
3日(金)	広域事務組合議会第3回定例会	午後2時～	福島町議会議場
6日(月)	12月会議勉強会	午後1時30分～	議員控室
8日(水)	定例会12月会議	午前10時～	議会議場
9日(木)	定例会12月会議	午前10時～	議会議場
10日(金)	定例会12月会議	午前10時～	議会議場
1月19日(水)	議会運営委員会 ・議会だよりの編集	午後1時30分～	議員控室

編集後記



大々的に報道され続けた新型コロナウイルスの新規感染者数も減少し、緊急事態宣言に伴う各種制限も緩和され、少しずつですが、皆様の落ち着いた日常が戻ってきているのではないのでしょうか。

コロナ禍でなかなか帰省できなかった家族と、ゆっくりすごせる年末年始になることを祈っております。

・・・・・・・・

次回（令和4年2月1日発行）は、定例会12月会議を中心に紹介する予定です。少し早いですが皆様良いお年を。



北方領土返還要求運動
シンボル「千島桜」